

## 2020年度 コロナ対応アンケート集計結果

2021.3.3 教文 家庭科教育研究会

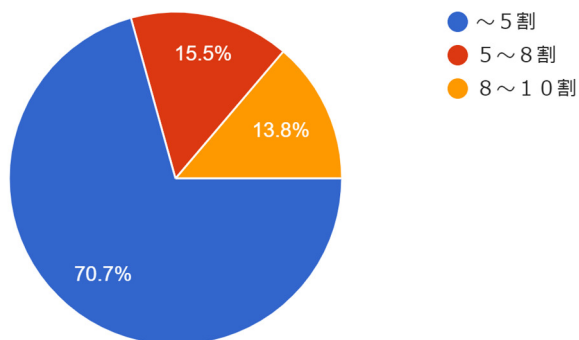
先日は、突然のアンケートにも関わらず多くの学校より回答をいただきまして、ありがとうございました。おかげさまで一定の傾向を把握することができましたので、ここに集計結果をお知らせします。なお、一部答えにくい設定の質問でご不便をおかけしましたことをお詫びいたします。

### 1. 実習の実施状況

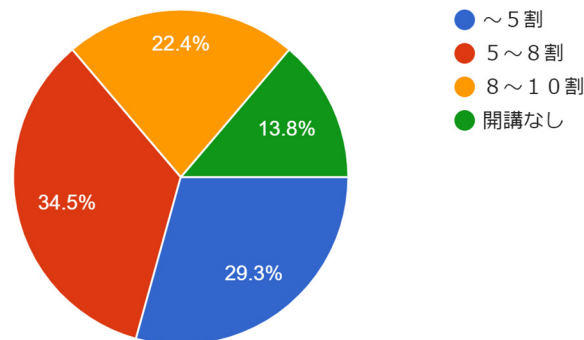
回答 58校

#### (1) 調理実習

クラス単位の調理実習は、例年に比べて何割程度実施できましたか（生徒1人あたり）

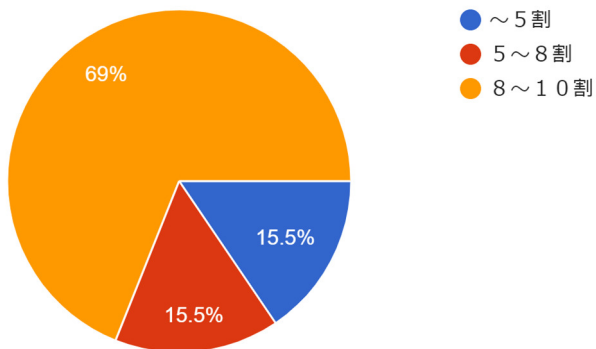


選択講座の調理実習は、例年に比べて何割程度実施できましたか（生徒1人あたり）

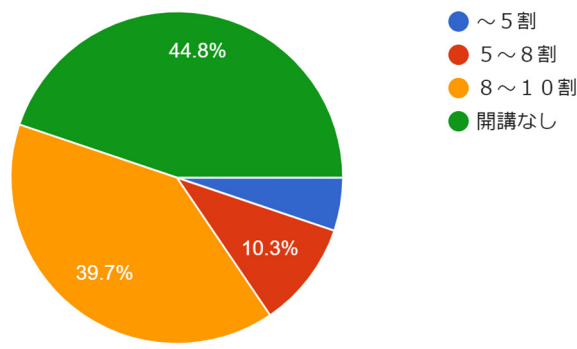


#### (2) 被服実習

クラス単位の被服実習は、例年に比べて何割程度実施できましたか（生徒1人あたり）

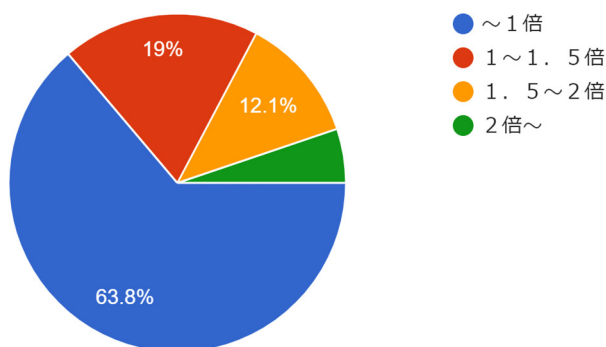


選択講座の被服実習は、例年に比べて何割程度実施できましたか（生徒1人あたり）



#### (3) 教員の实習授業時間

教員一人当たりの総実習授業時間は、例年に比べてどの程度でしたか



## 【考察】

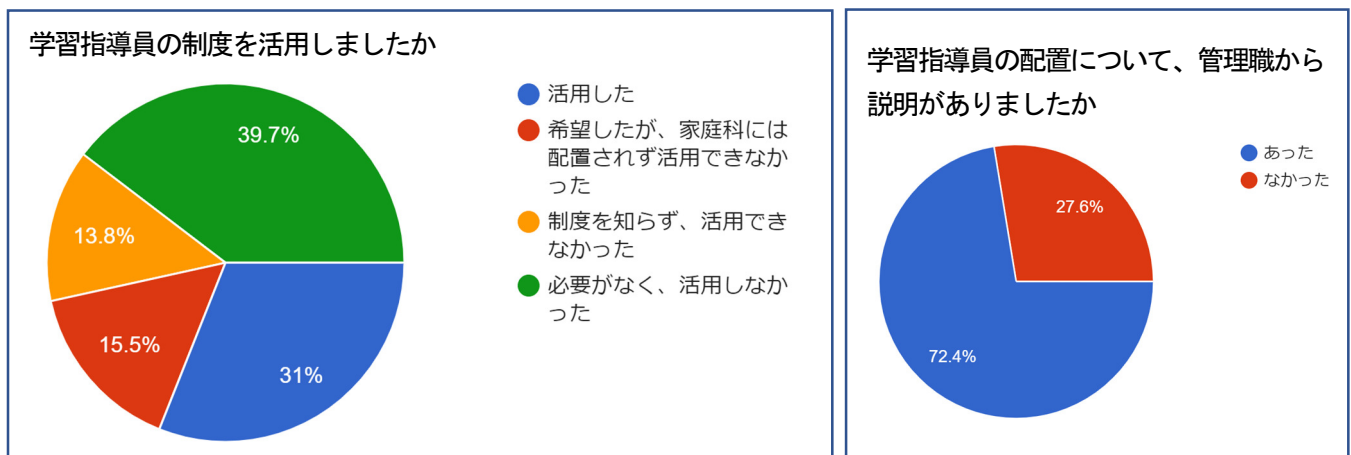
生徒の実習経験はこの1年大きく減少せざるを得なかった。特に調理実習は感染予防対策上の課題が多く実施が厳しい状況であり、1回も実習ができなかったという学校も多い。実習の経験不足を補うため家庭での実習レポートを課すなどの工夫がなされた学校では、評価が難しいなど新たな課題が挙がっている。来年度に希望を託し学年間の履修内容を組み替えた学校もあるが、来年度の状況好転に見込みが立たない状況である。一人教科の学校が多い中、現場の教員の努力だけではとても現状を打開することはできない実情がある。

### 調理実習実施のための課題

1. 生徒人数 40人規模では実習ができない。少人数（半学級）実施のための人的配置が必要
2. 感染予防対策 生徒への衛生指導、消毒、感染予防対策のための消耗品や調理器具購入の予算確保、献立・班編成・試食・食材の分配 等の見直し  
具体的で確かな「感染予防対策」が明らかでない
3. 教員の負担 消毒衛生業務に加え、半学級で実施した場合は実習授業回数の増加・自習課題の作成  
「調理実習で感染が起きてはならない」という精神的負担

一方、半学級での実習を実施した学校はその教育効果の高さと安全性を改めて痛感し、コロナ以降においても少人数実習がスタンダードになることの重要性を再認識している。ただ現状の半学級実習においては、半学級に自習指示を出しながらの実習、他教科に自習監督応援の依頼、自習課題の作成、生徒一人当たりの実習回数は減少しているのに教員の実習授業回数は増加 など、教員の負担があまりにも過重である。

## 2. 学習指導員の活用



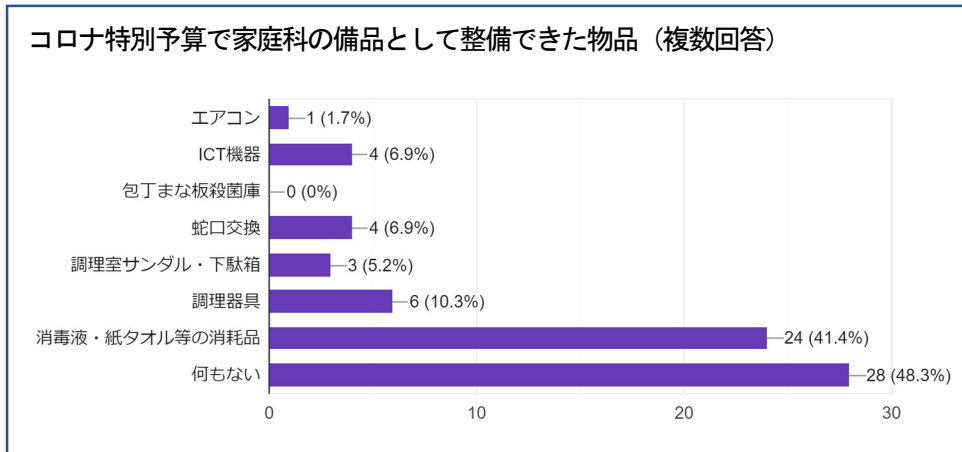
## 【考察】

本年度緊急措置として「学習指導員」（授業や補習が主な業務）の他、「学習指導補助員」、「教員業務支援員」（こちらは補助的な業務内容に限られ、必ずしも教員免許を必要としない）の任用についても配置があった。

「学習指導員」の活用例として、「半学級が実習している間、残り半学級を指導していただく」というケースが多かったと推察する。もともと家庭科の非常勤講師がいる学校においては時間数を増やしていただく形で運用し、そうでない場合は他教科の非常勤講師の先生に指導員として自習指導をしていただく、等の対応だったと思われる。

これらの運用、職員への説明に関しては学校によって大きく対応が分かれたと推測する。配置の説明自体がなかった学校が3割に迫る、指導員を必要とする教科の検討・判断が一部の職員だけで行われるなど、広く職員に情報が伝わらず、機会を十分に生かせなかった実態が推測される。こうした緊急時の対応だからこそ、情報が等しく伝わるような配慮を望むところである。

### 3. コロナ特別予算の執行



#### 左記以外で整備できた物品

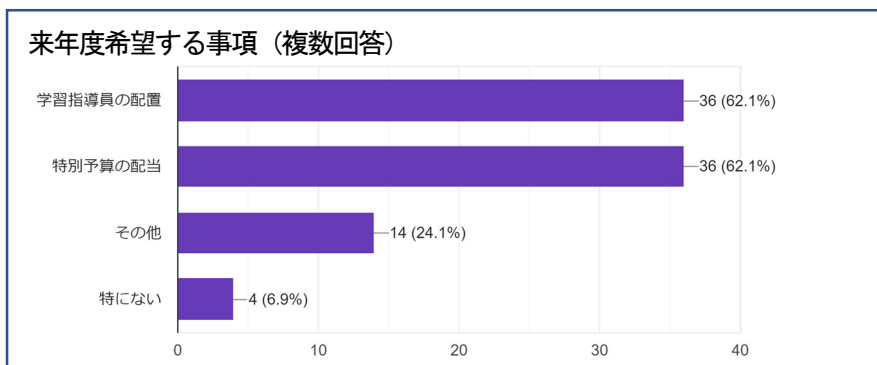
- ・冷風機
- ・扇風機
- ・ブルーヒーター
- ・清掃用モップ
- ・非接触型体温計、体温計
- ・DVD教材（自習用）
- ・ビニールシートによる衝立
- ・師範台前に置くアクリル板

#### 【考察】

「何もない」との回答が5割に迫る。この予算の使途決定経緯においても、学習指導員の件と同様に学校間で対応が分かれたようである。希望を伝える機会が十分にない、家庭科の優先順位は低くなりがち、などの実情が推測される。

「消毒液・紙タオル等の消耗品」に4割の学校が利用している。今後も当面必要になる物品であり、例年の需用費で賄えない分は、感染対策支援の予算による配当を早い段階からお願いしておく必要がある。

### 4. 来年度への希望



#### 上記「その他」の内容

- 備品関係**
- ・ エアコン
  - ・ 調理室の冷房機器
  - ・ 調理室へのアクリル板設置（試食時）
  - ・ 電子黒板、アクセスポイント等の ICT 機器の整備
  - ・ 実習教室への電子黒板の配置
  - ・ ステライザというウイルスを不活性化する空間清浄機
- 人的加配**
- ・ クラスを分けて少人数で調理実習を行うための人員加配
  - ・ 今年度配当のあったコロナ対応の非常勤講師枠の継続
  - ・ クラス単位の授業を半学級で出来れば、コロナ対策をしながら調理実習等の実習が行いやすくなる。その反面、半学級にすると授業の持ち時間数が多くなるので定数増がないと対応が難しい。実習のある教科については、人的配置を増やすなどの対応をしていただくと有り難い。
  - ・ 一部の学校だけでなく、どの学校でも常に少人数での授業ができるようにしてほしい。
  - ・ 教員業務支援員に支援をもらった。来年度も申請した。
  - ・ 実習における加配。コロナ対応で、少人数での実習が望ましい。クラスや講座の実習人数を半分にするため、同時開講で授業を行うための加配をお願いしたい。
  - ・ 学校全体での教員数の増加または 例 生徒会計などは外部委託
- その他**
- ・ 情報の共有
  - ・ 予算の使い方は学校によって差があるのではないかと感じる。

## 【考察】

学習指導員等の人的加配、安全な教育活動のための物品購入費等、コロナ禍において緊急度が増した項目について多くの希望が挙げられた。しかし現時点で来年度の学習指導員の配置はしない旨、県から連絡が来ているとのことであり（教育業務支援員については、必要な学校は手を挙げている）、大いに懸念される。追加予算については、第3次補正予算で感染対策支援の予算が各校に一定額出る予定なので、校内において早い段階から要望を上げていく必要がある。

来年度以降、各校でコロナウイルスと共存しながら家庭科授業を行うために、補填していただく必要がある「人・予算」を、今年度のうちから訴えていく必要があると思われる。

一方、これらの希望はコロナ禍において緊急度を増した側面はあるものの、これまで長年に渡り実現をお願いしてきた内容であることに他ならない。今回の災害を契機に、長期的な教育条件の改善が成されるよう、各校レベル、研究会レベルで声を上げていく行動が求められる。

## 【研究会としての今後の対応】

来年度に向け、特に「人の加配」について見通しが厳しい（学習指導員・学習指導補助員の予算がない）状況です。そこで、何らかの形で県に申し入れをする方向で、組合の協力もいただきながら検討しています。

年度切り替えの時期にあたり、どこまで具体的に進められるか分かりませんが、学校現場の状況を県に伝えたいと思います。以後、進捗状況は支部長さんを通じて各校にメールでお知らせしますので、ご確認ください。

校内でもぜひ声を上げてください。現場からの要請が県に上がることで、訴えが力を増すと思います。

## 5. 先生方から寄せられたご意見

この1年、多くの先生方が「情報共有がしたい!」と望んでいらしたと思います。この会が十分にその役割を果たせなかったことに責任を感じています。

今回、たくさんのご意見を寄せていただきました。「そうなんだよね・・・」と共感する部分、「それ、うちでもやってみよう!」と参考にできる部分、「できなかったのはうちだけじゃない」と慰められる部分など、様々だと思います。先生方がそれぞれの場所で奮闘された様子をここに掲載します。家庭科教員として思うところは皆同じです。横のつながりを感じて、来年度に向けて元気を出していきましょう。

コロナ対応全般にわたり、感じておられること

## 【調理実習】

家庭総合、フード共に調理実習は1回も実施しませんでした。被服実習は実施学年を変更し調理実習と入れ替える形で実施したので、1学年はt・tができました。やはり、スムーズです。家庭科は半学級での実施が必須だと感じました。

調理実習はできませんでした。管理職に相談してもやらないようにと指導がありました。

1年生の調理実習については、今年度は家庭での課題としました。よかったかどうかはわかりませんが、1人で4科目をこなす中、今まで、1年生の調理実習がかなりの負担であった事がわかりました。調理実習をしないお陰で、授業の進みがよかったという側面もあります。来年以降、実施に迷うところです。

2、3年生の選択科目の調理実習は、持ち帰りを基本として実施しました。持ち帰りだと、メニューが限られてしま

うのが、悩みです。

少人数での調理実習が、とても効率よく、生徒の主体性が発揮されこんなに違う物だと驚いた。被服実習のような個人制作物は感じなかったが、調理実習のように班内で分担して行う内容は、特に苦手な生徒や、控えめな生徒、意欲のない生徒にとっては活躍しにくさがあることを確信した。コロナ対応関係なく、少人数での実習は、生徒の質問にも即対応でき、生徒も課題を表現し、解決しようと考えてみようとする意欲につながるので、現代の家庭科教育には必要であるように感じている。個別に対応が求められる現代において調理実習においては、来年も少人数で行えるなら行いたいと思う。講座別授業や習熟度授業体制が他教科で進む中、40人学級単位の家庭科授業も今後検討していただきたい。家事労働の実践力が低い生徒ほど、高校家庭科でもまた手が入りきれないことが心苦しい。

家庭科担当が一人しかいないため、選択は一人調理台一台の実習を二回転で回しましたが、必修のクラス単位での実習は諦めました。人的サポートをお願いしたいです。

調理実習については、配慮が必要と言うことで、1人1台で対応した。調理室使用前に消毒、器具も消毒、非常に手間がかかった。

調理実習の準備にこれほど時間がかかるとは思っていませんでした。調味料や調理器具は数が必要になるし、計量の手間がかかるし、それでも20人の調理実習のやりやすさにはありがたさを感じてしまいました。実習だけでも半分に分けて行って行けたらと思います。

調理実習は1調理台に2人で実習を行いました。半学級で行ったため一人ひとりに目が届きやすくなりました。その一方、残りの半学級への指示が必要であるので、家庭科が一人の場合は他教科の先生をお願いする必要があります。また、実習の回数が増えるため調理計画するのが大変になりました。

学習指導員が引き上げられてから、他教科の方に調理実習以外の生徒の自習監督をしていただきました。対応してくださった先生方に感謝しております。できれば普段からITないし少人数でできるような体制を作っていたらとこのようなことが起こったときにありがたいです。

コロナ対策の中で環境整備していただけたことにより、より授業がやり安くなった面もある。今後も調理実習は半学級でできるようにお願いしていくべき。調理室のエアコンは、生徒の安全面から、引き続き重点要求していく必要がある。個別実習は生徒個人のスキルを高めるという発見もできたが、協働して課題に取り組むという点では残念な面もあった。また授業時間だけでなく準備に追われ休日も実習材料を分ける作業等で出勤し、なかなか大変であった。

管理職が調理実習実施に理解があり、実習に関する方針や注意事項等の家庭通知配布等、スムーズにおこなうことができた。生徒は、実習中の感染防止への意識が高かったように感じた。

### 【被服実習、実習全般】

被服実習については、被服机にシートをかけていただき、先ずは机、椅子を消毒。その次に、悩んだのがミシンの消毒。ミシン糸を外して消毒をするべきだろうが、毎時間糸かけからさせるのは時間がかかるし…と、今年度2年生が人数が少なかったから出来たことだが、ミシン1台に1人を割り振り対応した。

本校は他校に比べると少人数で授業を行っているので、実習は時期をみながら（管理職とも相談しつつ）何とか行えましたが、日常的なグループ学習はできませんでした。残念でした。

実習はもちろんですが、幼稚園実習などが実施できず保育系への進路希望者にとっては体験不足になってしまった。また、グループでの話し合いや製作も控えたため、例年とは違う感じになった。絵本の読み聞かせも、今年は実写カメラを使ってやってみたが、テレビの画面が小さかったので後ろの生徒には伝わりにくかったかもしれない。様々な理由も重なって今年は調理実習を控えた。特にフードデザインや食文化の選択者にとってはかわいそうだった。食文化ではテーブルコーディネートの学習としてコースターを製作した。最初は抵抗もあったが完成して達成感があるようだった。初の試みとしてclassroomに作品を使用している写真を提出してもらった。大変なこともたくさんあったが、新たなことに挑戦する機会にもなったと思う。選択肢が広がったので、これからは場面に応じて選択できるといい。

やはり、実習は少ない人数が良い。コロナであってもなくても20人程度がお互いにやりやすい。通常の仕事に加えコロナ対応を行なっている。授業研究して授業を最優先させる環境を整えて欲しい。20人で実習(調理も被服も)できるのはすべてにおいて素晴らしい。従来より試行錯誤してきた様々な問題を解消する突破口のように思う。これが維持継続できるよう、家庭科教諭1の持ち時間16時間のシバリを減じるのか?、もっとうまい方策もあると思うが、いずれにせよコロナ対策で学習指導員を充てた時間をコロナ禍後も教諭で持てる体制を望む。

半学級で実習できるような環境がコロナ禍に関わらずあるといいと思った。

調理実習など、常に密であり、コロナだけでなく、危険が多い状態であるとあらためて感じさせられました。

#### 【学習指導員、予算、お願いしたいこと】

本校では学習指導員について、「非常勤の先生方の勤務日を補習するために利用する、消毒作業や印刷プリント業務を行ってもらおう」という案が職員会で出されました。家庭科の実習指導等に入ってもらえるとは知りませんでした。

(学習指導員について) 必要がなく…と回答しましたが、説明があった時点で調理実習を講座半分程度の人数なら実施可能ということが、こちらではっきりわかっていたら、自習監督としてお願いしたかもしれません。

教科の特質上、実験・実習を50%行う教科であると管理職の認識がない。学習支援員の希望を言ったが家庭科にはつかないだろうという対応で希望をあげていただいたかわからない。来年度の希望を出したが、校内での調整になると1人教科は不利だと感じる。

学習指導員に関して、「希望したが…」のところにチェックを入れましたが、調理実習ができると言われたころには、すでにいっぱい使われていたので、要求できませんでした。先を見越して予約しておけばよかったかもしれませんが、すぐに必要な教科が先だったでしょうね。独自交渉の場で言ってみましたが、必要だとの声が上がってきていないと言われました。何を言ってもすぐに人を用意してもらうのは無理ですよね。それでも、必要だと言われたらやるではなく、こんな時なので全校に配置していただくのが良いかと思います。たとえ、ワクチン接種が進んでも、100%かからなくなるわけではないようなので、対応していただきたいです。長くなりました。

調理実習を20名以下で行うために、学習指導員さんを是非今後、継続してお願いしたい。

#### 学習支援員のもっと柔軟な利用

コロナ特別予算の使い道は、全体に下されることなく一部の方々に決定したようです。学習指導員の配置についても、こちらから聞くまで説明がなかったです。学校ごとの対応だとは思いますが、学校によって対応が違いすぎる

こと、なんとかならないものでしょうかね。

急に警戒レベルが上がったり濃厚接触者が出たりして調理実習ができなくなった時に、準備した食材の補償をしてもらえるとうありがたい。

コロナ対応で、出来ることとできないことが、県よりも少しわかりやすく具体的に提示されるとありがたいと思いました。

### 【家庭科教員としての悩み】

通常の仕事に加え、実習室の机や椅子の消毒など、雑務が増えている。施設設備を背負っている教科の大変さを、理解していただけない場面がある。

コロナ以前より施設や備品の維持や管理に負担を感じている。(事務との相談も交渉も含め)さらに今年はコロナ対応で労力と神経を使った。県の施設であるので、県で管理するべき事も家庭科教員に課している部分はないかを感じている。

通年に比べ、実習室の消毒作業など、雑務が増加して仕事が増えている。

とにかく、全てに神経を使い、手間がかかる。精神的にも、肉体的にも、非常に疲れた。

毎日が緊張の連続です

1人教科のため、誰にも相談できず、正解がわからないため、迷うことが多いです。

前例がなく、判断・決断に迷うことが多かった。県からの指示は遅かったり、途中から無かったりで、説明責任ばかり追及され、心身ともに、疲弊した。

換気や消毒、できる限り少人数での実習等々配慮して行ってきました。調理実習の飲食や被服実習の道具の扱いなど、これからどのように進めていくべきか不安です。他の学校の状況を知りたいです。

家庭科1人教科という学校が多いので、どのようにコロナ対応をして授業を行ったら良いか、方法や対策等、情報共有する必要性を感じます。

家庭科と他教科ではコロナ対応に差があると感じている。調理室の使い方など、他教科の授業に徹底しきれなかった。

### 教文未加入の先生方、これを機に私たちと一緒に活動しませんか？

以上のような教育条件整備にとどまらず、授業実践交流や、講師を招いた勉強会などを行っています。(先日は、オンラインミーティングを利用して、「オンライン授業」「ICTを活用した授業例」などの実践例を学習しました。)

各校、家庭科の先生は人数が少なく、相談できずに悩むことが多いですね。家庭科の教員同士、学校や地域を超えて、助け合いましょう。みなさまの入会をお待ちしています！